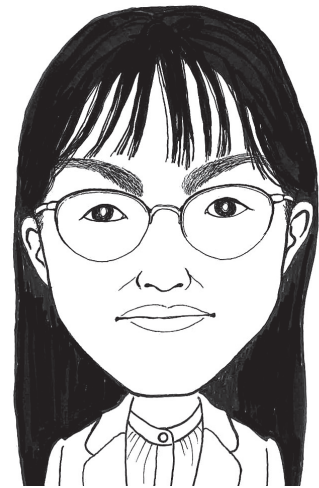


熊の出没時の対応や熊への対策について



山本 奈央 議員

町長 熊による被害軽減のために
今後も捕獲を強化する

問

清水町内において令和5年の熊

の目撃や足跡などの通報は16件あり、過去5年間と比較すると最多であり、加えて民家の近くで目撃される例もあった。

令和5年の十勝管内の熊の目撃や足跡などの警察への通報は前年の1.5倍に増えたとも報道された。

今年3月、北海道ヒグマ

保護管理検討会において道内の熊の推定個体数は約1万2000頭で30年前に比べ約2.3倍に増加しているとも報告された。

熊出没時の対応や熊への対策について伺う。

(1) 森林や畑・農作物の被害や作業中の安全確保をどのように行っているか伺う。

(2) 駆除を行うために猟友会との連携をどのように行っているか伺う。

(3) 熊と人との境界がある森作りが必要と考えるが現状について伺う。

(4) 熊出没時・目撃時

の町民への避難指示や安全誘導について伺う。

(5) 幼児・児童・生徒への安全配慮について伺う。

(6) 迅速な情報提供と日頃からの広報活動が重要であると考えるが現状と今後の対応について伺う。

町長

(1・2) 今

まで熊による農業被害は30万円台だったが、ここ数年70万円台。令和5年は70万8千円。熊による被害軽減のために今後も捕獲を強化する。清水町では熊は生活圏に出てきておらず、春熊駆除はしていない。

国立公園化しても今後も同様に駆除を進める。清水町も熊は増加傾向にあるが、個体数の把握はしていない。猟友会の担い手は若年層も入り活動している。

(3) 熊と人との境は下

草刈りや防風林の間伐などで見通しをよくする対策をしている。

(4) 熊の目撃の通報があった際は猟友会と現場確認し、足跡などで移動経路の推定をする。必要があれば関係部署と連携をとり、注意喚起をしている。

(5) スクールバス運転手が熊や不審者など、異変がないか周囲確認をして児童を降車させている。住宅街や学校周辺で熊が目撃された場合の訓練の必要性は今後相談して判断する。

(6) ホームページやフ

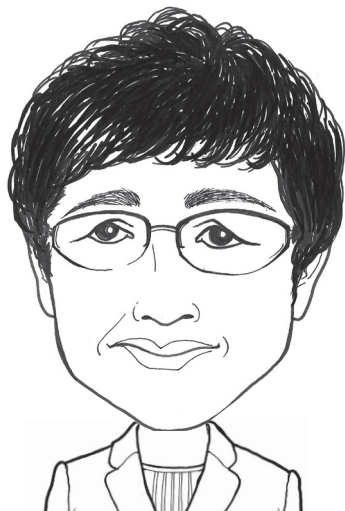


熊出没注意の看板



町ホームページ

エイスブックでタイムリーに情報発信している。10月運用予定のラインも活用したい。防災無線は出没場所にに応じて臨機応変に判断し活用している。



中河 つる子 議員

聞こえに不安がある人への聴力検査の実施と加齢性難聴者への補聴器購入費の助成を

町長 次年度からの助成開始や聴力検査の実施に向けて検討する

問

「周りの人の話が聞こえにくい」

「会議や人の集まりに出たがらない」「耳が聞こえなくなってきたが補聴器は高くて買えない」、これらは町民の現実の声である。耳が聞こえにくくなると、外へ出るのが億劫になり家に閉じこもりがちになり、認知症になるリスクが増す。これらのことがわかっていてもなかなか補聴器をつけることに繋がらない。その原因のひとつに、自分の聴力がどのくらいなのか把握ができていないため、補聴器を使ってみようという思いに至らないことが挙げられる。

また、補聴器は高額であり、買っても耳に合わず使っていないなどの話しもあるため、補聴器に手を出しづらいと考える。ついには次の2点について町長に伺う。

(1) 町で65歳以上の人

を対象に難聴者の早期発見を目的とした聴力検査を実施する考えはないか。

(2) 加齢性難聴者へ補聴器購入費の助成をする考えはないか。



町長

(1) 高齢者の難聴への

対応としては、耳の聞こえが外出抑制の要因のひとつとなり、認知症のリスクとなると考えるところだが、65歳以上の方を対象とした「聴力検査」の実施については、数値測定のできる検査機器と検査に適した場所の確保、さらに受診者負担を含めた検査費用が課題となるため、聞こえに不安

のある方は、検査数値だけでなく専門医師の診察を受けることが適当と考える。町で聴力検査をするのではなく、耳鼻科を受診し、検査・診察を受けていただきたい。

(2) 十勝管内では6町が独自助成を実施しており、全国的には独自助成を実施する市町村が増加していると承知している。本町としては、独自助成を実施する市町村の助成内容を踏まえ、次年度からの助成開始に向けて検討する。

